

成年後見制度に関するアンケート調査 (全国手をつなぐ育成会連合会権利擁護センターの報告:令和3年8月)

【調査の趣旨】(前略) どうしたら成年後見制度をもっと使いやすくできるのか、どの課題をどう解決したら安心して使えるようになるのか、当センターでも論議を重ねておりますが、この制度を利用している方はもとより、利用されていない方からも、現時点で忌憚のないご意見をいただくことで、改善への取り組みの一助にしていきたいと考え、アンケートを実施することになりました。(全国手をつなぐ育成会連合会権利擁護センター調査の趣旨より抜粋)

※当広報誌ではアンケートの回答を一部抜粋して掲載致しますが、掲載出来なかった回答につきましては県育成会のホームページにて掲載致しますので、あわせてご覧下さい。

＜4. アンケート回答の集計・分析＞ 1386人の回答

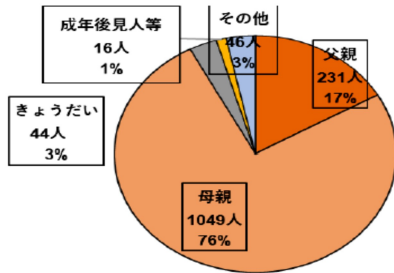
アンケート実施 2月26日～4月24日 全国からの回答

【集計は黒字、分析コメントは★に緑字で記載】

Q1 基本情報

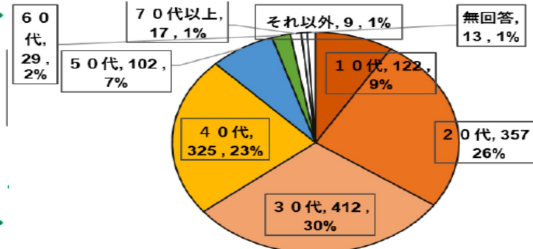
Q1(1) ②記入者あなたは、障害のある方にとって
どういう方(関係性)ですか？

その他：施設職員・支援者、きょうだい、
本人、おじ・おい・めい、親戚
第三者後見人、相談員、母親の任意後見人
きょうだいであり後見人、親であり後見人



★回答者の、97%が親ときょうだい、第三者後見人等はわずか1%だった。
全育連でのアンケートという特徴が出た。

Q1(2) ①障害のあるご本人の年代を
教えてください。
1386人の回答



★10代・20代・30代が65%と、
予想より若い世代の親御さんからの回答
をいただいた。関心の高さがうかがえる。
★グーグルフォームの利用の成果もある

Q3 現在、障害のあるご本人は成年後見制度を利用していますか？ 1386人の回答

利用している	10.9%	151人	→ Q4 へ
利用していない	87.8%	1217人	→ Q5 へ
回答無し	1.3%	18人	→ Q5 へ

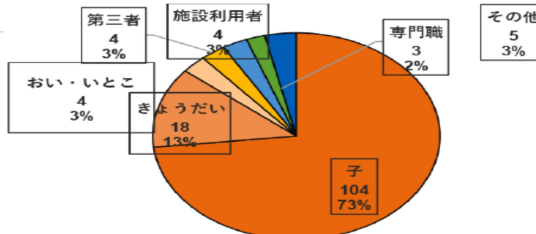
★成年後見制度の利用は、1割強にとどまっているが、最高裁報告では、知的障害者の後見利用率は3%程度とみられる。このアンケートが「制度利用者」に届き、声を聞けたことは良かった。

Q4 障害のあるご本人が成年後見制度を利用している方のみお答えください

151人の回答

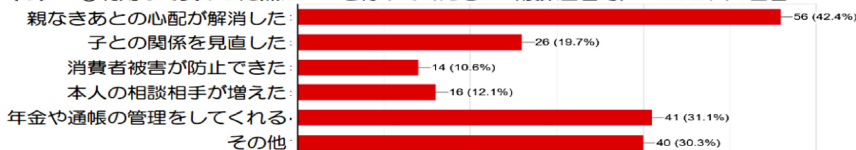
★151人のうち、最重度の方58人、重度の方56人、中度の方28人、軽度の方4人です。
やはり、最重度・重度の方が7割以上だった。

Q4(1) 成年後見制度利用の方(被後見人)は、
あなたにとって、どういう方になりますか？
142人の回答



★成年後見を利用している方の回答者は
9割近くが、親・きょうだい

Q4(6) ②利用して良かった点に ○を付けてください(複数回答可) 132人の回答



★親なきあとの心配が解消したという回答が多いが、4割程度にとどまり、年金・通帳管理も3割程度。前問の、問題と思われる点で「申し立てしたら取り下げられない/後見利用を途中でやめられない」と答えた方が半数だったの比べると、低い。

★親なきあとの心配が解消したことの具体的な回答は「本人年金だけでどの程度の暮らしができるのか具体的にイメージができた。相続がきちんとできた。きょうだいにとっても第三者後見人がついたことで母の死後も関係性が続く安心感がある」などがあつた。

次ページに続く

♪ 県育成会のHPにもカラーで掲載中♪

知的な障がいのある人と共に

手をつなぐ・うちな〜

発行所
沖縄県手をつなぐ育成会
那覇市首里石嶺町4-373-1
沖縄県総合福祉センター内
TEL 098 - 882 -5727
FAX 098 - 882 -5720
E-mail:oki-iku@wody.ocn.ne.jp
HP: http://www.oki-iku.com/
発行人 理事長 田中寛
定価 50円(会費を含む)

【目次】

P1 資料…成年後見制度に関するアンケート①

P2 資料…成年後見制度に関するアンケートへの考察

P3 義援金募集・チャリティー実行委員会お知らせ

P4 県育成会予定・ゆんたく広場・理事通信 他



《5. 考察》

1面からの続き

回答者の97%が親ときょうだいであったことから、知的障害者支援のキーパーソンがまだまだ家族であることが伺える。障害のある本人の年代については、10～30代が全体の65%で、後見を付ける年代としては予想より若い世代のご家族から回答をいただいた。これらのことは、今後、少なからぬ課題解決に取り組むにあたり、「成年後見制度」への関心の高さも感じられ、非常に心強く感じられた。本人の障害の程度については7割近くが最重度及び重度であり、親なき後の問題の深刻さは育成会ならではの喫緊の課題と再認識した。

本人の住まいについても、7割が家族同居であり、グループホームや一人暮らし等の環境整備がなかなか進んでいない社会の状況が伺える。親の年代も60歳以上が過半数を占め、本人の自立した生活と共生社会の構築に向けて、早急な対策が必要である。(中略)

利用者のうち、どういう人が後見人になっているかについては、151人中、母親が50人、父親が30人、きょうだいが24人と、7割が家族完結型であり、心情的にも人情的にも我が子を託せる後見人の不足が伺える。

類型は「後見」が130人と圧倒的多数である。また「成年後見制度」利用の理由は、親の高齢化による将来への不安や、障害福祉や介護保険の契約のためが2～3割ずつ、親亡き後の相続の発生という理由も多く、知的障害者の相続権が健常者と同等の権利として社会に浸透してきたものと言える。

「成年後見制度」の利用者が僅少とは言え、回答者の多くがこの制度の問題点を把握しており、育成会会員の意識の高さを感じることができた。一度申請したら後戻りできない柔軟性の無さや、本人の意思を尊重しない後見人の資質の低さなども確実に把握している。

知的障害者にとっての「成年後見制度」として、後見人の資質の低さからくる問題点に「障害理解と福祉の知識がない」ことも挙げられている。たとえば、「親族後見から第三者後見に引き継ぎたいが、障害に理解のある後見人が不足」法人後見事業をしている団体・法人に引き継ぎたい」等の意見もあった。

さらに「成年後見制度」のもうひとつの大きな問題は、「身上保護」の在り方である。回答者の多くが、第三者後見人による単独の後見には不安感を持っている。「生活面の支援は障害福祉サービス等が担うにもかかわらず、後見人と福祉との連携が不十分では、身上保護の役割が果たせないのではないか」といった意見からもチームでの後見支援を望んでいることが推察される。

「チーム支援」はこれからの後見に必要なもので、たとえば、本人に身近な親族・福祉・医療・地域等の関係者と後見人等がチームとなって、日常的に本人をいろいろな視点で見守り、本人の意思や状況を継続的に把握し、必要な対応を行う仕組みのことである。チームは、「本人には意思、思いや気持ち、好き嫌いなどがあるという前提」で関わっていくもので、本人が自らの意思や思いをそれぞれの形で伝える(あるいは推察する)ことができ、それが本人の意思、思いや望んでいることにつながるよう、実行可能なあらゆる支援を尽くしていかなければならない。「今のままの成年後見制度は利用したくないが、親亡き後を思うと何らかの備えはしておかなければならない」と考えていることが多くの回答から伺えるので、「チーム支援」は尚いっそう、今後の大きな課題と言える。

以上のような課題・問題点に加え、特に「後見報酬」については、自由記述も含め、知的障害者は障害基礎年金だけが保証された所得であるにも拘らず、本人負担とされていることに多くの反対意見が出ており、ここも育成会として譲れない点である。報酬は、「公費負担であるべき」「本人負担であるなら年金の1割程度の額にするべき」「助成(補助)制度を充実させるべき」という意見など、関心の高さと問題意識の高さを共有していると思慮できる。「後見報酬」の問題は、知的障害者の立場になって抜本的に解決されない限り、「成年後見制度」の利用は普及していかないとさえ言えよう。

「成年後見制度」の普及が進んでいかない理由については、制度の内容についての正しい説明だけでなく、個別の事情(我が家の場合)に寄り添った話のできる『窓口』が身近に少ないことも要因のひとつと考えられる。回答からは、『窓口』としての認知度は、市区町村役所や社会福祉協議会や相談支援センターでも2割～3割、今後期待される後見支援センターは1割強、育成会は3割弱であった。育成会には「専門相談機関へつなぐ一次相談」であれば担えるのではないかと期待する。

「親なき後、成年後見制度以外に、どのような支援や仕組み・システムがあったら、安心ですか?」の問いには、「今利用している法人」「たくさんの方とつながる」と答えた人が一番多く、「遺言」「信託・保険」「後見的支援」「医療関係」以外に具体的なシステムはなかなか思い浮かばないようである。ただ、相談支援専門員を頼りにしている人も多く、計画相談が根付いてきたと言える。

「成年後見制度に関して育成会にしてほしいことはありますか?」の問いにも多くの意見をいただいた。特に「成年後見を使いやすい制度に変える取組み」を望む声が7割と多く、全育連への期待と受け止め、今後も国の会議にしっかりと要望を届けていく必要がある。また、全体の自由記述に鑑みても、利用促進法で示される「地域連携ネットワーク」と「中核機関」が、早急に市町村で設置されることが期待されていると言える。「地域で中核機関!が有効に機能すべく努力してほしい」との意見からは、各地の育成会が働きかけ、連携して欲しいとの期待が伺える。また、前述の『窓口』で記述したが、育成会等の一次相談からのつなぎ先が「中核機関」となれば、本当に必要な方がメリットのある成年後見利用につながると期待できるのではないかと。(後略)

〈考察: 権利擁護センター成年後見チームリーダー 高野淑恵〉

出典: 成年後見制度に関するアンケート調査より(令和3年8月)

令和3年7月静岡県大規模土石流被害への義援金募集

沖縄銀行 石嶺支店	琉球銀行 石嶺支店
(普)1417991	(普)444073
公益社団法人 沖縄県手をつなぐ育成会 理事長 <small>たなか ひろし</small> 田中 寛	

今年7月に発生した「令和3年7月静岡県大規模土石流」では甚大な被害が生じました。被害に遭われた皆さまへ心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と被災された皆さまの生活再建をお祈り申し上げます。

沖縄県手をつなぐ育成会では、義援金を募り、全国手をつなぐ育成会連合会を經由して被災地の各育成会の会員にお届けします。

以下の義援金振込先の口座を設けましたので、沖縄県手をつなぐ育成会の会員の皆様や『手をつなぐ・うちな〜』の購読者の皆様以外にもご周知いただき、ご協力をお願い申し上げます。募集期限は11月30日(火)までと致します。

◆義援金の用途について：
全国手をつなぐ育成会連合会の口座で集められた皆様方のご厚情は全て、被災地の正会員育成会經由で各県の会員様にお届けします。育成会の復興のために使用されますことをお知らせ致します。



チャリティーゴルフ大会へのご協力お願い



本年も「公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会チャリティーゴルフ大会」を開催いたしますので、多くの皆様のご協力、ご参加によるご支援をお願いいたします。なお、大会の収益は県育成会へ寄付致します。(チャリティーゴルフ大会実行委員会)

大会開催日：令和3年11月15日(月)

場所：沖縄カントリークラブ (西原町字桃原109 TEL 098-945-3371)

- ★ご予約は直接ゴルフ場あてにご連絡をお願いします。(午前は10組限定・午後は貸切の予定です)
- ★プレー料・参加費：12,000円(税込・セルフ料金・食事付)
※キャディ付は3,300円アップ
- ★ワンオンコンテスト：6番ホールでワンオンコンテストを行います。
※豪華賞品有♪
- ★表彰方法：プレー終了後、抽選により全員に賞品を授与
- ★コロナウイルス予防の為、当日はマスクを着用し、体調不良の方はご参加をお控え下さい。



(ご質問・お問い合わせ：チャリティー実行委員会 098-882-5727 まで)



冬季チャリティー販売のご案内



チャリティー実行委員会よりご案内です。
令和3年11月1日(月)～12月6日(月)まで、『ちゃんぽん・皿うどん詰合わせ』と『島手らーめん(とんこつ・醤油)』『手延べうどん』を販売致します。ご注文は各団体か下記までお願いします。※販売収益は県育成会へ寄付を行います。
♪連絡先：チャリティー実行委員会 TEL 098(882)5727♪

N-1 (詰合わせ)	ちゃんぽん(麺100g×4袋) 皿うどん(麺60g×4袋)	2200円
SR-1	麺75g×10束 (とんこつ5袋・ 醤油5袋)	2000円
VS-45	手延べうどん (麺90g×14束)	2780円



県育成会行事報告10月

- ★10月1日(金) 県総合福祉センター 県育成会第3回3役会議
- ★10月21日(木) 県育成会事務局
- ①第2回組織・財政委員会
- ②チャリティーゴルフ実行委員会③
- ★10月26日(火) 県総合福祉センター
- ①第1回研修・権利擁護委員会
- ②県育成会第2回理事会

県育成会行事予定11月・12月

- ★11月5日(金) 県育成会事務局
- チャリティーゴルフ実行委員会④
- ★11月15日(月) 沖縄カントリー
- チャリティーゴルフ大会
- ★12月9日(木) 琉球病院
- 障害者虐待防止訪問研修

令和3年度全国大会について

今年度の全国大会は集合形式で行わず、全国大会代替式典として、YouTubeでの動画配信形式で行われる予定です。

収録の関係上、会員の皆様への配信は1月頃を予定しておりますので、取り急ぎご報告致します。詳細が決まりましたら、改めてご連絡申し上げます。

令和3年度賛助会員

個人 宮城 洋子(2口)
 『手をつなぐ・うちな〜』編集者
 理事長・田中寛
 沖縄県手をつなぐ育成会事務局



回中理事長のゆんたく広場

SDGs(エス・ディー・ジーズ)という表現をよく目にします。Goals(持続可能な開発目標)の略称であり、2015年9月に国連で決められたサミットの中で、世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標です。学校や仕事関係において、日本人の半数は「聞いたことがある」というのがネット情報ですが、私自身は最近その意味を知りました。少し前から、インクルージョン(包み込むの意味)などのカタカナ語やアルファベットが通常の会話から使用される頻度が増えていくのが難しい」とのことです。「日本語への和訳が難しい」とのことです。「日本語への和訳が難しい」とのことです。「日本語への和訳が難しい」とのことです。

『手をつなぐ』配布募集



機関誌「手をつなぐ」は、中央情勢・各地育成会の活動、また特集コーナーで、教育・福祉・就労・医療等の最新の情報がわかりやすく掲載されています。お申込みご希望の方は、県育成会まで一度ご連絡下さい。年間購読料 3,900円

沖縄県手をつなぐ育成会では専用ホームページを開設しております。最新の情報や、活動報告、広報誌のカラー紙面もご覧頂けます。是非アクセスしてみてくださいね!!
 育成会HP：
www.oki-iku.com



理事通信

ー今が踏ん張りどころー
 理事 花城 旭三



ワクチン接種が進み、コロナの新規感染者数が減少してきたことに伴い、4か月に及んだ緊急事態宣言も、9月末でようやく解除となりました。

今後は社会経済活動の正常化が見えてくると思いますが、これまで以上に三密の回避やマスク着用等の感染防止策を個人個人が徹底していければと思います。宮古地区手をつなぐ育成会では、令和3年度第30回定期総会を、規模を縮小し、十分な感染対策を行った上で、理事・監事のみで開催することができました。今年度は役員改選も行われ、新役員で決意を新たに頑張っていく所存です。先日の宮古地区の理事会では、県育成会社会啓発事業の宮古地区知的障がい者スポーツ大会も、コロナ拡大の為に中止することが決定致しました。私事ではありますが、障害者施設に入所している息子とも、緊急事態宣言が発せられてからは、外泊・外出を自粛し、会えない状況です。そんなコロナ禍で開催された東京オリピック・パラリンピックでは、特に県勢選手の活躍には感動と勇気をもらいました。早いうちにコロナが終息し、これまでのような生活を取り戻したいものです。